

飯能信用金庫DX戦略の策定について

飯能信用金庫（理事長：松下寿夫／埼玉県飯能市）は、昨今のデジタル技術の進展等によるお客さまニーズの多様化や社会環境の変化が急速に進んでいることを踏まえ、デジタル分野におけるお客さま目線での利便性向上や各種データ利活用によるソリューション提供および弊金庫内の業務効率化への取り組みを強化することを目的として、今般「飯能信用金庫DX戦略」を策定しましたのでお知らせします。

記

1. 策定日：令和6年6月1日（土）

2. 飯能信用金庫DX戦略について

デジタルとFace to Faceとの最適な組み合わせを通じた業務改革・経営改革を行い、質の高いソリューションを提供することで一層地域に貢献していく

3. DX戦略3つの柱

- I. デジタルチャネルの拡充（お客さま目線での利便性追求）
- II. 業務効率化（業務プロセスの革新・生産性向上）
- III. 人財育成・体制整備（DX推進に向けた基盤確立）

※DX戦略の詳細については、別紙を参照願います。

以上

【本件に関するお問い合わせ】

飯能信用金庫 デジタル戦略室 田地・伊東

☎042-973-4515（平日9:00～17:00）

✉digital@hanno-shinkin.jp



令和6年6月1日

飯能信用金庫 DX戦略

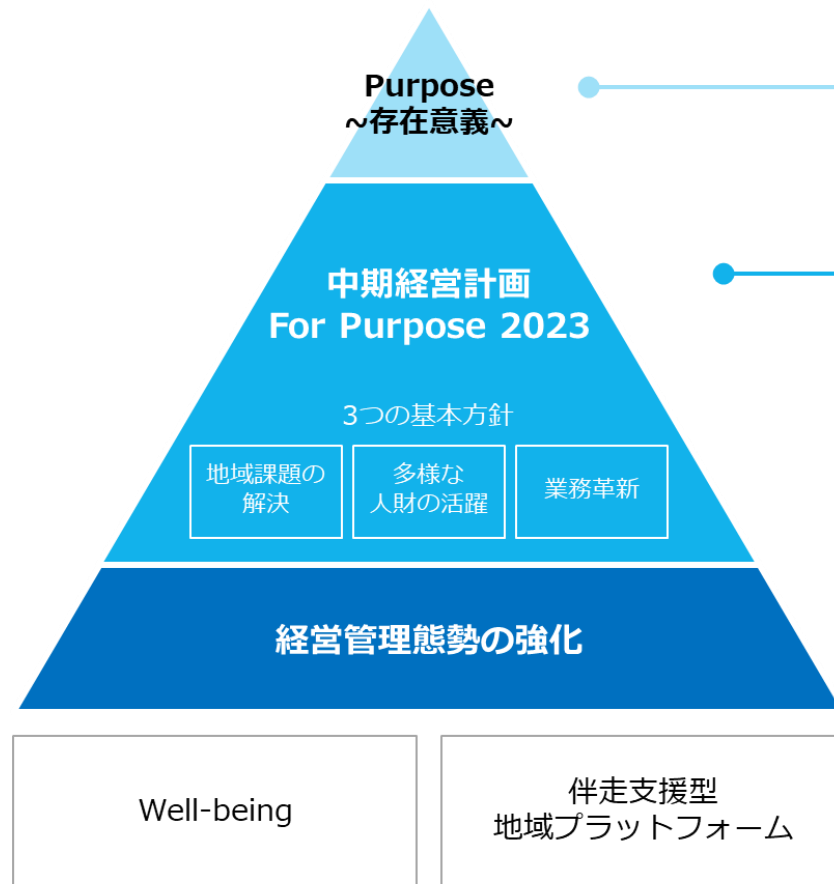
01

飯能信用金庫のDX(デジタル)戦略の制定について

01

1. 飯能信用金庫のDX(デジタル)戦略の制定について(1)

中期経営計画 全体像



つながり続ける、
挑み続ける、
未来を彩る笑顔のために。

For Purpose

~つながり続ける、挑み続ける、未来を彩る笑顔のために。~

I 地域課題の解決

- 事業者の企業価値向上
- 個人のライフステージに応じた資産形成
- プラットフォームによる地域の課題解決

II 多様な人財の活躍

- 全員参加型リーダーシップの醸成
- 自律的なキャリア形成
- 働きがいのある組織づくり

III 業務革新

- DXによる業務改革
- 店舗網の最適化
- 人財ポートフォリオの最適化

1. 飯能信用金庫のDX(デジタル)戦略の制定について(2)

中期経営計画 For Purpose 2023

Face to Faceによる四次元的地域密着型金融【深化】×地域価値創造【進化】



地域課題の解決



多様な人財の活躍



業務革新

《当金庫のDX戦略》

デジタルとFace to Faceとの最適な組み合わせを通じた業務改革・経営改革を行い、
質の高いソリューションを提供することで一層地域に貢献していく

《DX戦略3つの柱》

- I. デジタルチャネルの拡充(お客様目線での利便性追求)
- II. 業務効率化(業務プロセスの革新・生産性向上)
- III. 人財育成・体制整備(DX推進に向けた基盤確立)

02

飯能信用金庫におけるDX(デジタル)戦略の位置付け

02

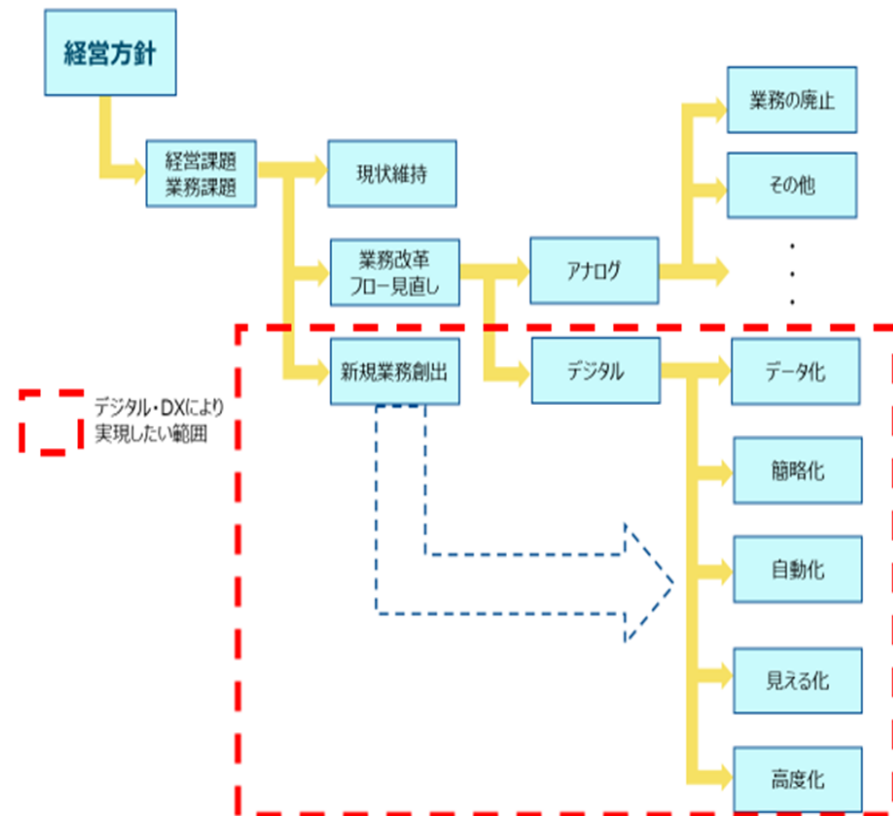
2. 飯能信用金庫におけるDX(デジタル)戦略の位置付け

前中期経営計画(2020年～2022年) において認識した課題の解決

- 地域、お客様とのリレーションシップの強化
- 職員一人ひとりの活力につながる人財育成
- お客様との接点拡充につながるサービスの提供

デジタル分野の役割

- 「データ化」「簡略化」「自動化」「見える化」「高度化」をデジタル分野で実現する
- 多様なチャネルでのお客様との「つながり」強化
- 新規業務創出のための手段
- お客様目線での業務改革
- 業務効率化による生産性向上



03 取り組み施策～3つの柱～

03

3. 取り組み施策～3つの柱～ ①デジタルチャネルの拡充

 目的：お客様目線での利便性向上

アクションプラン	具体的施策	効果
非対面での取引完結	ウェブ経由での各種諸届の受付	お客様利便性の向上
SNS等での発信強化	地域情報の発信(主にInstagram) 当金庫情報の発信(主にLINE)	地域の魅力の認知度向上 当金庫認知度向上
お客様接点の増加	本部専門部署職員との リモート面談の導入検討	相談対応可能なお客様の増加
本業支援機会の増加	主催セミナーのオンライン配信強化	幅広いお客様への情報提供の実現
電子契約の導入	当金庫向けのスキーム検討	ペーパーレス化の加速 業務の効率化

3. 取り組み施策～3つの柱～ ②業務効率化

目的：業務プロセスの革新・生産性向上

アクションプラン	具体的施策	効果
業務の見える化伸展	グループウェアの入替実施	タスクの見える化による 作業進捗の把握
ペーパーレス化伸展	窓口支援システムおよび 電子稟議システムの展開拡充	紙資源の削減 決裁までのリードタイム短縮
各種データの利活用促進	データ分析ツールの活用による 営業活動の効率化	効果的な訪問先選定や提案の実現
基幹ネットワークの検討	イントラネットとインターネット 環境の最適化模索	業務集約と効率化
社内知の集積と共有	生成AI、AIチャットボットの導入検討	業務の属人化の解消 問い合わせ対応等の省力化

3. 取り組み施策～3つの柱～ ③人財育成・体制整備

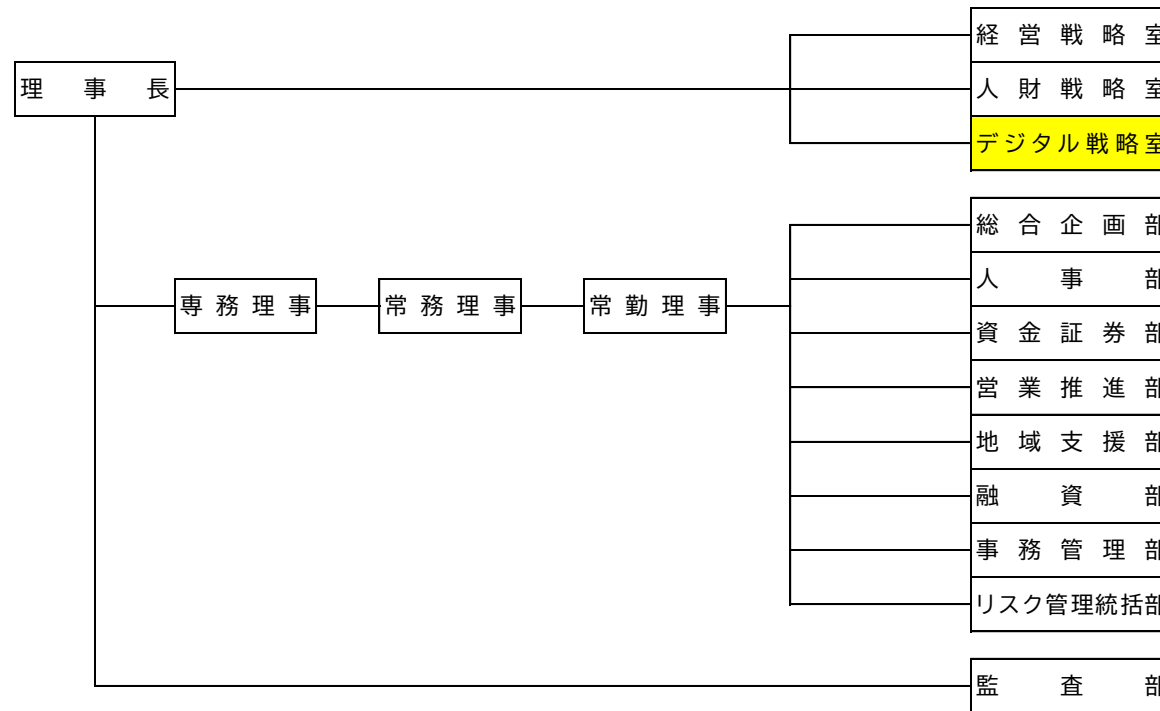


目的：DX推進に向けた基盤確立、実践的なDX人財の育成と活躍推進

アクションプラン	具体的施策	効果
専門部署の創設	デジタル戦略室の設置	組織横断的な業務効率化および経営合理化の実現
DX支援人財の育成	関連資格取得の勧奨 (ITパスポート等)	顧客へのDX推進支援の素地取得 ITリテラシーの向上
DX人財の適切な配置	顧客ニーズに対する体制最適化 DX人財の採用強化	顧客・地域への付加価値提供、DX化支援
デジタル知識の理解深化	外部研修参加、庫内勉強会実施	学ぶ(リスクリング)風土の醸成、定着
キャリアプランの検討	DX人財育成体系の構築	チャレンジする意識向上、環境の整備

3. 取り組み施策～3つの柱～ ③人財育成・体制整備

令和6年4月より、組織横断的に業務効率化・経営合理化を目的としたデジタル戦略の企画・立案を行うために、「デジタル戦略室」を理事長直轄の部署として新たに設置



「顧客への付加価値創造(利便性向上)」「業務効率化を通じた顧客接点の増加(機会損失の減少)」
「データ活用による対面営業の高度化」「データドリブン思考の定着」の実現を目指す

04 施策の達成状況に係る指標(KPI)の設定

04

4. 施策の達成状況に係る指標(KPI)の設定

総合的な管理指標としての「DX推進指標」とDX戦略の観点から中期経営計画に準じKPIを設定

項目	指標
総合指標	DX推進指標を活用した現況把握
デジタルチャネルの拡充	非対面取引の多様化、顧客接点の創出による本業支援件数の増加
業務効率化	効率化、プロセス改善による紙の申込書類(伝票含む)削減
人財育成・体制整備	奨励資格取得者数増加およびDX人財の適切な配置

※DX推進指標：経済産業省が作成した指標。自社のDX進行度の自己診断に利用可能なツール。